Japan Swine Farm Business Cooperation

TONJIKYO

ゆめ通信

2018.1.1. No.96

発　行　日本養豚事業協同組合
〒104-0033　東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階
TEL.03-6262-8990　FAX.03-6262-8991

新年のごあいさつ

日本養豚事業協同組合
理事長　**松村　昌雄**

明けましておめでとうございます。

一年を顧みますと多忙な年でありました。１月には稲吉弘之前理事長への感謝の集い、並びに著書“私の養豚人生”出版披露会、８月には旭日単光章受章記念祝賀会を開催し、受章の喜びを皆様と共有することができました。又、第56回農林水産祭で㈲香川畜産（宮崎県）が天皇杯を、秋の叙勲で林邦雄氏（㈱林牧場会長）が黄綬褒章を受章され、慶事の重なった年となりました。大変おめでとうございました。

養豚業界は４年続きの高豚価に支えられ、多くの組合員が好決算となった事と思います。豚事協も前年並みの決算となりました。これも多くの組合員に支えられた結果と誌面からお礼申し上げます。共同購入事業は前年対比プラスとなりましたが、主力である指定配合飼料“ゆめシリーズ”は前年並みとなりました。今年は１万トン／月を是非越えねばなりません。飼料価格は肉豚用で１月に比べ年末の価格は900円安となり、１年間の上げ下げは軽微な変動で生産コストへの影響は小さく、安定した取り組みの出来た１年であったと思います。

組合員数については、期初は414名でしたが期末には421名となり、２年続けての組合員増となりました。組合の活性化にも繋がりますので、今年も新規組合員獲得に向けて積極的に取り組んで参ります。

現状が順風であればある程、今後の展開に不安を持っている方々が多いと思いますが、幸いなことに米国･南米のとうもろこし、大豆等の豊作が見込まれ、特に米国では５年連続の豊作となり、円安の状況下でも値上げ幅は軽微にすみ、先行きの不安も少ない状況になっております。

TPP11カ国での大筋合意もされ（カナダが抜ける？）、EUとのEPA交渉も近々大筋合意に至りそうな状況の中、生産者に残された時間はあまりありません。条約が締結されるまでは最大482円の従量税が、発効後５年目まで125円となることを考慮すれば、６～７年間位が残された時間と思えます。この間に生産性向上、コスト削減等できることから取り組みましょう。

長期間苦しんできた配合飼料価格安定制度の借入金残高は平成28年度末時点で約517億円となり、あと３年で完済予定となります。豚肉の安定対策事業が法制化された時には“入口対策と出口対策の両方に財政支援が必要になるのか”という議論が始まると思います。仮に飼料基金が廃止となればトン当たり2,100円の飼料費が浮き、資金繰が楽になります。セーフティネットの一本化を実現してほしいです。

昨年の７支部のセミナーでは、山本先生より諸外国、特にスペインの状況が報告され、対日輸出の凄さを学ぶ事ができました。育成塾卒業生である曽我統一君、志澤輝彦君、柴香代子さんからは、今後の経営の抱負が語られ、多くの参加者から共感が得られ有意義な講演会となりました。昨年から始めた組合員と豚事協との直接対話に於いては時間不足もあり大きな意見は聞かれませんでしたが、今年も継続して組合員と組合との間に溝が生じないよう努めていきたいと思います。充実した良い年になりますよう皆で頑張りましょう。

九州支部セミナー開催

九州支部セミナーは10月13日熊本市のザ・ニューホテル熊本で開催されました。実取孝祐支部長より組合員他多数の出席の謝辞を述べられ、本セミナーがしっかりとした体制固めのための次の一手となるよう参考にしてほしい旨の挨拶で開始されました。

「日本養豚事業協同組合事業内容紹介」日本養豚事業協同組合山田より豚事協が行う事業について説明があり、特に配合飼料ゆめシリーズについて詳細な解説が行われ、会員の皆様には利用の手引きを再度よく見て戴くようお願いいたしました。

㈲メンデルジャパン農場長蜷川琢磨氏より「農場及び事業紹介」がなされ、種豚の改良ポイントが①産子数、②増体重、③飼料要求率にあることが示されました。

「連続飼育を、豚舎新築・３サイト化によりAI・AO態勢に」と題して㈲柴畜産柴香代子氏より、柴畜産の概要、現状の問題点、３サイトへの将来展望が述べられ、生産性向上の要因としては、①AI／AOの生産システム、②飼料の低コスト化、③TOPIGSの導入を確立することだと紹介されました。

「EUの種豚改良の方向性と迫りくるEU産輸入豚肉の脅威」と題して獣医師山本一郎氏より講演されました。EU養豚産業界の変化の大きな一つに、日本をターゲットとした豚肉づくりが進められていることを序段として、中国の状況について2013年～2016年の母豚数・肉豚生産頭数・豚肉輸入状況の推移を示しながら日本への影響について解説されました。

豚肉の食肉市場、スーパー・小売の販売状況を写真で示しながら説明され、EUの環境問題及び動物愛護は国の基準と農場での実施状況が紹介されました。

沖縄支部セミナー開催

11月17日サザンプラザ海邦で開催された沖縄支部セミナーは金城栄支部長の開会挨拶で始まりました。

「日本養豚事業協同組合事業内容紹介」と題して日本養豚事業協同組合山田より、共同で行う事業を通じて個々の養豚経営の近代化・合理化を促進し、経済的地位の向上並びに養豚業界の発展と、消費者に安全でおいしい豚肉を供給することに資するとの豚事協の基本方針が確認され、ゆめシリーズを中心とした取り扱いの内容が紹介されました。

㈲メンデルジャパン農場長蜷川琢磨氏より農場紹介に始まり、JPPA平成28年度の養豚実態調査から①人工受精の実施状況、②種豚改良に求められているものが抜粋され説明されました。さらに、検定の状況とともに種豚が紹介され、2010年からの精液利用農場の大幅に改善された分娩率・総産子数・離乳頭数の成績が発表されました。まとめとして、肉屋及び大学生のアンケート調査を基に種豚の改良点として産子数・増対・飼料要求率・均一な背脂肪厚・肉質・しまり・揃った枝肉重量が求められていることを把握したことが説明され、㈲メンデルジャパン農場内の様子が動画で紹介されました。

続いて「連続飼育を、豚舎新築・３サイト化によりAI･AO態勢に」と題して㈲柴畜産柴香代子氏より、柴畜産の成り立ちから始まり、財務状況の推移、会社の経緯と話は広がり、現状の問題点から改善に至る経過が詳細に語られました。

最後に、獣医師山本一郎氏より「EUの種豚改良の方向性と迫りくるEU産輸入豚肉の脅威」と題した講演が行われました。スペインの豚肉の輸出に向けての取り組み状況が語られ、最近の中国情勢については消費が伸びている中で、豚肉生産は2013年対比で2016年は86％と大幅に減少している様子が母豚飼養頭数、肉豚出荷頭数の推移で示され、中国の豚肉輸入数量の推移と合いまった世界の価格情勢の現状が説明されました。（山田）

第５回Topigs研究会開催

10月27日東京都内にて第５回Topigs研究会を開催し、当初40名程の募集の所、大幅に超えた53名の方にご参加頂きました。講師は馬場宏太氏（㈲馬場ファーム）、山内拓巳氏（㈱山内養豚）、栗木貢男氏（㈲原山種豚場、星野氏の代理）にお願い致しました。講演の内容は下記の通りです。

【馬場宏太 氏】

Topigs-GP導入は平成24年、クレストグループのサポートを受け、オールアウト期間・設備改修を経て実現しました。平成26年にPEDの侵入を許してしまいましたが、バイオセキュリティを徹底し、以後陰性を維持しております。今後の課題は、育成舎を改装し離乳舎・育成舎の密飼いや移動遅れの解消、体重管理を正確に行う、より効率良く働ける設備・環境づくりで、その達成に向けて邁進して行きたいと思っています。

【山内拓巳 氏】

もともとはIT企業に勤めており、農場を継ぐ気はなかったのですが、父が病気を患った事をきっかけに、継ぐ決意をしました。Topigs導入は研修先の㈲田代養豚場の田代誠一社長の勧めにより、平成25年10月に４頭を試験的導入。現在はTopigs率が70％に至っています。今後の目標はTopigs率を100％にすること、ベンチマーキングへの参加、日本人スタッフの確保、ピッグフローの改善による疾病コントロールを進めて行きたいです。

【栗木貢男 氏】

当初は㈲原山養豚場の星野孝輔氏が講演する予定でしたが、作業中の大怪我により、急遽栗木貢男氏に講演を引き受けて頂きました。冒頭に、怪我には十分注意する事を強く喚起されました。星野孝輔氏は千葉ピッグの社員として養豚業務に従事しており、将来は群馬県にある実家の㈲原山養豚場に戻る予定で日々勉強中です。Topigs導入の経緯は㈲サミットベテリナリーサービスの石川先生の紹介により、繁殖成績の向上を期待して、平成25年から少しずつ行い、現在は50％に至っています。現在は規模拡大、豚舎の新設とツーサイト化を実現し、今後は農場HACCPへの取り組みと、Topigs率100％を目指しています。

【パネルディスカッション】

パネラーは、講演した３名の他、Topigs Norsvin社よりウィリアム・ステイン氏、アルノ・ヨーステン氏をお迎えしました。自家配については、設計や管理・コスト面で非常に難しい作業の為、飼料メーカーに任せるのも１つの考えだという意見を元に、アフリカの現状（90％自家配だが原料を自分で調達できる環境）や、オランダの現状（ほぼ配合飼料。現場近くに工場がある事と、農家の規模も小さい）をステイン氏より話して頂きました。

精液自家採精及び種豚の生産については、飼育場所の確保が難しいのと、飼育管理の徹底を考えると、種豚、精液、飼料に関しては購入した方がいいという意見や、外部から豚を入れると馴致が難しいので、自家生産したいという人もいる。しかしうまく育てられずに更新を繰り返しているうちにガタガタになってしまうという意見が出ました。それを受けてTopigs社のヨーステン氏より、外部の豚は馴致をしっかりしてから導入するという意識もあるが、農場内生産の場合は馴致を徹底する意識も崩れやすい。馴致、検疫を失敗するとボディコンディションが崩れるので、馴致プログラムをいかに最適化するかが鍵であると意見を頂きました。

Topigsについては、深部注入におけるAIのタイミング、離乳母豚の栄養管理、育成コントロールについて話し合いが行われました。中でも育成コントロールでは、体重を測っている農場、測っていない農場でそれぞれ理由を述べました。ヨーステン氏からは、Topigs社ホームページ上にある育成管理ツールの中に目標値を載せているので、体重、Ｐ２、日齢の管理に是非使ってみて下さいと推奨され生産が改善されて経営を続けられる事がTopigsを導入した意味だとお話し頂きました。

２時間半のパネルディスカッションは、時間が足りないのではないかと思うくらい、積極的な意見交換ができたと思います。（久保）

Dr. 伊東のランダムシンキング

第四回　「社会で生きる」を考える。②ものづくりと信用・信頼

伊東　正吾

1．戦後日本社会の発展の背景

私は幸いに戦争を知らない世代ですが、戦後復興期から繁栄期に青春時代を送った人間です。こう表現しても、今の若い世代や中堅世代には今一つピンとこないと思います。

私の実家は岐阜県東濃地方の片田舎にあり、父は教員、母は家事と農業に従事し、当時としては極めて一般的で何の変哲もない家庭でした。しかし周辺を思い起こすと、小学校の給食費工面に苦労しているとか、また、極めて稀ですが山麓の洞窟で生活しているような家庭もありました。つまり、戦後の復興期のなかでつつましく、かつ必死に生活する社会状況だったように思います。現在の生活状況からは、考えられない時代でした。また、当時のわが国産業の旗手としてバイク・自動車産業、そして照明、ラジオやテレビ、電気冷蔵庫、洗濯機、炊飯器などの家電産業が思い起こされ、日々進歩しながら生活が豊かに改善されていく感覚がありました。特に高度経済成長期には、ニコンやソニーは世界のトップ企業として君臨し、ホンダやヤマハなどのバイク、ダットサン・日産自動車やトヨタ自動車などの車産業、家電の松下電器産業・ナショナル：Panasonicなど、どの分野を取り上げても日本製品の品質の高さは世界と比較して抜きん出た存在であり、その結果、アジアの東端に位置する敗戦小国である日本が世界のトップとして認められた時代を構築しました。

その要因を一言でいえば、誠実で勤勉な国民性をベースとした「高い技術力」であり、その背景には「誇り高い職人」の存在があったことは明確だと思います。それが最終的には“Japan as Number One”とまで世界に言わしめ、言わば「東洋の奇跡」を具現化したのです。つまり、日本は「ものづくり」により急速に戦後復興を遂げ、世界に冠たる地位を築いたと言っても過言ではないと思います。

2．発展した現代日本の落とし穴

わが国において最近、国の根幹を揺るがすといっても良い不祥事が連続して発生しています。これは同時に、長年にわたって着実に築き上げてきた信頼と評価が瓦解してしまう、危機的な事態に陥ることを示唆しています。長い年月で築き上げた厚い信頼でも、一瞬の出来事で消え失せてしまいます。

この危機的現状の原因を分析すると、生産効率と収益性を優先させた経営主導が製品の品質低下等を招来し、その結果、積み上げてきた信頼を失い、最終的には収益どころか損失拡大という負のスパイラルに陥る事態を招いているように思います。

具体的には東芝Toshiba、神戸製鋼、日産自動車やSUBARUなどの不祥事から始まり、直近では東レや三菱の系列などでもカモフラージュ不正が明らかになるなど、負の連鎖が止まらない状況です。一番信頼されていた製造業分野での不正が続発している状況は、余りにも嘆かわしいとしか表現できません。こうなると当然ですが、営業部門が頑張っても、原点の製品品質に疑念があれば経済活動が不調になることは容易に想像できます。

現場主義を貫かれた本田宗一郎氏や、経営の神様とも称せられる松下幸之助氏のように、職人気質を理解し貫きながら会社経営を介して社会に多大な貢献をされた偉大な先人達の目に今の状況がどう映っているかと思うと、本当に申し訳なく、かつ悲しくなります。

学者や職人を揶揄する言葉として、「学者バカ」とか「職人は目の前のものづくりに夢中で経営感覚がない」などがあります。このような言葉は、暗に社会性の欠如を指摘するものだと思います。確かに当事者は真摯に受け止めることも必要ですが、ただ、それに縛られ過ぎては技術の進歩は得られないのも事実だと思います。

「財務や経営を考えない技術屋は使えない」などと、さも王道らしく声高に叫び易いのでしょうが、本来ならば、高品質製品を生み出すことこそ必須であり、製造プロ関係者の本業です。そのうえで、そこで生まれた技術や製品をいかに活用して収益を得るかを実現することこそ、その分野のプロの仕事であるはずです。つまり、会社・組織が成果を得るためには、お互いの立場を尊重し合いながら連携する姿勢と努力を怠ってはならないということだと思います。

3．養豚産業の持続的発展のため

私は、養豚産業に関わる繁殖分野の技術屋（職人）あり、また研究機関や大学に所属する研究者でもありましたので、それら揶揄する言葉を当然意識し、その言葉の意味の重要性と課題の両面を認識しながら学生や社会と接してきたつもりです。だからこそ思うのは、個々人の気概・誇りと組織の重要性、多様な分野の人間の相互の尊重と連携こそが良質な成果を生み出し信頼を獲得できる根源であり、それがゆがめられてしまうことは大きな負のスパイラルを招き、最終的には社会から消え去る運命にあるのではないかと考えています。

養豚産業の生産農場の中だけでも繁殖から肥育出荷までにいくつかのステージ・部署があり、また、経営全体の把握や財務管理、衛生管理、そして販売・営業と多様な分野、さらに食品産業や環境管理部門との連携などがありますので、やはりしっかりした連携の必要性がなければ事業は回りません。最終的には、いかに高品質な食材として供給するかが一番重要であり、工業製品と同じく、信用・信頼性がキーポイントとなるはずです。しっかりした仕事の着実な遂行からプライドとブランドが生まれ、持続的需要につながると思います。

養豚産業においては今後も社会的責務を十分認識し、各々の部署で職人気質を発揮しながら尊重・連携し、ラグビーの精神にあるような“One for All、All for One”を遂行すれば、必ず持続的に発展できるのではないかと信じています。

資源に乏しい小国の日本がなぜ発展できたかを再考し、やはり、従来の実績の上にあぐらをかき、おごりや過信に陥ることこそ排除すべきであり、「誠実で勤勉な国民性」という原点に立ち返ることが重要であり、それこそ発展の礎だと考えます。

信頼の象徴のひとつ

仲間とスクラムを組み戦いに挑む。個々の個性と能力を生かし担当部署の役割りを確実に果たし、チームの目標に向けて一丸となって立ち向かう。
“One for All，All for One”の精神が根源となっている。

豚事協若手経営者育成塾第２期第１講座開催

11月７日AP浜松町にて第２期豚事協若手経営者育成塾開塾式が行われ、開塾にあたって、稲吉弘之塾長より第１期は28名の方に卒業証書をお渡ししたこと、相談役４名の方にアドバイスを受けながら、小規模・中規模・大規模それぞれのモデルを構築した結果が、相談役よりの厳しい指摘の中で発表されたことなど、第１期豚事協若手経営者育成塾の経緯が説明され、卒業生を含め36名の塾生に向けて、第２期はさらに発展させてもらいたいとの激励の挨拶がなされました。

続いて松村昌雄理事長より支部セミナーで講演している第１期生の方の評価は高く、セミナーでは好評であった旨の報告がなされ、豚価、輸入豚肉の近々の問題はあるが、２年間充実した時間を過ごすことを期待しますとの挨拶がなされました。

農林水産省生産局畜産部畜産企画課畜産経営安定対策室新川俊一室長より第２期の開塾の祝いが述べられ、塾長の熱い思いを心に刻みながら受講して欲しいとの激励の言葉を賜り、自身のマルキン業務に触れ、ここ数年マルキンの発動がないことは経営者の皆さんにとっては非常に良いことであると思われるとの来賓の挨拶がなされました。

この後、日本養豚事業協同組合役員及び豚事協若手経営者育成塾相談役の紹介がなされた後、塾生全員により２年間の塾に対する意気込みが述べられました。

「グローバリズムのゆくえと国内農業のあり方」と題して京都大学大学院人間・環境学研究科柴山桂太准教授より、グローバリズムに焦点を当てた歴史を紐解きながら現在の世界の動向について及び対抗するポピュリズムの台頭についての講義がなされました。グローバル化とナショナリズム化の塾生の思いはそれぞれで、多数の方の質疑応答で時間の足りなさを感じた講義となりました。

「私の養豚人生と今後の勝ち残り戦略を考える」と題しての豚事協若手経営者育成塾稲吉弘之塾長の講義は、養豚業界の共通問題の問いかけと、塾生に向けたエールが経験による裏付けのある数字で示された説明は、塾生の皆さんへの道標となる講義となりました。

翌11月８日の講義の始まりは、「中国経済と農畜産業の現状と課題」と題して農林中央金庫総合研究所基礎研究部阮蔚（ルアン ウエイ）理事研究員より、インド、米国、南米の大国ブラジルに及んだ話を織り交ぜながら、①中国経済と農畜産業の基本状況、②食糧消費量・生産量・輸入量・在庫量の同時増加、③ 穀物価格支持政策の見直し、④養豚事業の現状と課題、⑤中国の輸入増とビジネスチャンスの拡大をポイントとした講義がなされました。

「養豚生産者から養豚経営者になるために」と題して㈱林牧場林邦雄代表取締役より、
儲かる養豚の指標、人・もの・金の活用の仕方、規模拡大に関する長短、目標設定の必要性等の幅広い経営に関する話がなされ、林会長の経験談を踏まえたスピーチに皆さんの目の色が変わる関心の高さが伺えた講義となりました。

「米国･世界の穀物事情」と題してコンチネンタル･ライス・コーポレーション茅野信行代表より、2017/18年度の米国のとうもろこし、大豆の生産状況、その価格の変動要因が詳細に説明され、更に南米の影響、米国のエタノール政策の動向、中国の穀物生産･消費動向と多岐に亘る世界の穀物生産・消費動向が講義され、２日間に亘る経営と世界情勢に関する講義が無事終了いたしました。（山田）

事務局からのお知らせ

家畜共済のご案内

近年多発する自然災害に対して、農業者自らが備えをしておくことが重要になっています。家畜共済は、自然災害等により家畜に損害が生じた場合に、共済金が支払われる公的な保険制度です。自然災害等に備えて、家畜共済に加入しましょう。

共済目的

種豚	出生後第５月の月の末日を経過したもの
肉豚	出生後第20日の日（その日に離乳していないときは、離乳した日）から出生後第８月の月の末日までのもの

共済事故

種豚	死亡（と殺等（※２）を除く）、廃用（※３）、疾病及び傷害
肉豚	死亡（と殺等（※２）を除く）

※１：家畜の導入などの共済責任開始日から２週間以内（待期間中）に発生した死廃事故及び病傷事故は、原則として、共済金が請求できません。しかし、事故原因が加入後であることが明らかなケースは、共済金が請求できる場合があります。
※２：家畜伝染予防法による手当金等により、家畜伝染予防法の規定による評価額について満額補償される場合は、共済事故の対象とはなりません。
※３：共済事故の対象となる廃用は、疾病や傷害によって死にひんした状態になるほど家畜として使用する価値がなくなったことによる廃用です。（老齢等、能力低下により単に使用価値を失った家畜の廃用は対象に含まれません。）

共済掛金期間

共済掛金期間とは、共済金の支払の対象となる期間のことで、加入者から農業共済組合等に共済掛金の払い込みを受けた日の翌日から原則１年間です。

引受方式

包括共済	対象家畜の種類ごとに加入者が飼養する全頭を加入し損失を補償する方式です。 肉豚については、飼養区分（導入日を同じくする等の飼養群の単位）ごとに引き受ける群単位引受方式と、農家単位に年間一括で引き受ける農家単位引受方式があります。

共済価額

共済価額とは、対象家畜の種類ごとに、現に飼養している家畜の価額を合計したもの（肉豚の群単位引受方式の場合は、飼養区分ごとに共済掛金期間開始時に飼養している肉豚の価額を合計したもの）であり、農業共済組合等が評価します。

共済金額

共済金額とは、共済事故による損害が生じたとき、農業共済組合等が支払う共済金の限度額です。なお、共済金額は、共済価額に最低割合（※）を乗じて得た金額から８割を乗じて得た金額までの範囲内で、加入者が決定します。
※最低割合は、農業共済組合等が２～４割（肉豚は４～６割）の範囲内で定める割合です。

共済掛金

共済掛金は、共済金を支払う財源となり、あらかじめ加入者から納めていただくものです。共済掛金のうち５分の２を国から助成しています。

共済金

共済金は、共済掛金期間内に発生した共済事故によって、加入者が損害を受けたときに、その損害の程度に応じて支払われます。

$$（事故家畜の価額－残存物価額等）\times \frac{共済金額}{共済価額} ＝共済金$$

（注）１　「残存物価額」は、廃用家畜の肉、皮等から得られる収入です。
（注）２　上の式において、共済金の計算に用いる「残存物価額」は、事故家畜の価額の２分の１を限度とします。
（注）３　上の式により算定される共済金の額が純損害額（加入者の損害額）を上回る場合は、純損害額が共済金として支払われます。

家畜共済の詳細については、農林水産省ホームページをご覧ください
http://www.maff.go.jp/j/keiei/hoken/saigai_hosyo/s_gaiyo/katiku.html
具体的な内容や、共済への加入手続き等については、お近くの農業共済組合等へお問い合わせください。

Topics

「ゆめシリーズについて」第４回

専務理事　矢嶋　隆次

まず初めに、抗生物質のコリスチンが飼料からなくなることについてお話します。

現在、養豚用の飼料に添加できる抗菌性物質は23種類あります。その１つであるコリスチンの養豚用飼料への添加が禁止されます。コリスチンが入った飼料は６月いっぱいで世の中からなくなるよう指導を受けています。これに伴い、製造メーカーでは飼料添加用のコリスチンの製造は停止しています。委託製造をして頂いているフィード・ワン㈱も１月からコリスチンを配合した飼料は製造しないとの方針を立てています。豚事協としても１月製造分からコリスチン入りの飼料は製造しないこととなりました。

ゆめシリーズでは、硫酸コリスチンは“ゆめミルク５・６”には40ppm、“ゆめミルク７”には20ppm、“ゆめ人工乳10”には10ppm入れていましたが、これが添加できなくなりますので、代わりにフジラック30（ユッカ抽出物）を添加し、コリスチンの代替とすることとしました。コリスチンの特定添加物としての投与目的はFCの改善とされていますが、現場では『離乳子豚の下痢対策』として期待されていました。しかし現実にはどこの養豚場でも離乳後の下痢は多く、期待されたほどの効果はなかったようです。

それではゆめシリーズの説明に入ります。今回は“ゆめ子豚40”と“ゆめ肉豚60”になります。

まず“ゆめ子豚40”の表示表は**表１**の通りになります。DE3,440kcalの飼料に必要なSID（有効）リジンは、PIC（ケンボロー）のマニュアルでは0.99％となります。この時期の子豚に給与する飼料としては、“ゆめ子豚40”のリジンはPICのマニュアルからは0.2％少ないこととなります。しかし、日本格付け協会の格付け基準に『適度な脂肪付着があること』という条件があるため、脂肪付着がPICよりかなり多い日本の肉豚では十分と思われます。

“ゆめ子豚40”の給与体重で飼料に0.8％含まれているリジンを十分利用して増体につなげるには、「含まれているリジンに対し、ほかのアミノ酸がメチオニン＋シスチン（含硫アミノ酸とも言います）＝0.45％、トレオニン（スレオニン）＝0.49％、トリプトファン＝0.14％、バリン＝0.53％がそれぞれ必要である」とケンボローのマニュアルにあります。これが“アミノ酸バランス”といわれるものです。この比率に関しましてはケンボローでもハイポーでもあまり変わりはないようです。

では、“ゆめ子豚40”のリジン以外の飼料に含まれるアミノ酸の計算値はどうでしょうか。メチオニン＋シスチン、トレオニン（スレオニン）、トリプトファン、バリン全てケンボローのマニュアルが要求する量（要求量といいます）より多く入っています。多ければいいとは言えませんが、0.8％含まれているリジンを十分に使って増体させられるということです。本当は、バランスをぎりぎりのところで維持するのが最も効率の良い飼料なのですが、まだそこまで計算されていません。ケンボローやハイポーなどのハイブリッド豚、TopigsやダンブレッドなどハイブリッドをS凌駕するようなDGを持つ種類の肉豚が増えてきましたので、ゆめシリーズもそれに合わせて進化させようと思います。でも、養豚用飼料は科学であるということをなかなか皆さんに理解してもらえません。

某メーカーの子豚用飼料の表示表を**表２**に掲載します。粗タンパクは十分ありますがリジンなどのアミノ酸は不明です。おそらくリジンさえも公開しないと思います。ゆめシリーズの様にリジンの計算値をパンフレットで公開している飼料は他にありませ

んし、菜種かすやそうこう類を使わないゆめシリーズは、アミノ酸の利用率が高いものばかりです。下記の飼料はタンパク源に菜種かすとそうこう類を使っていますので、有効アミノ酸を計算するとゆめシリーズよりかなり低くなります。FCや増体に対する飼料単価ではわからない効果がここにあります。

それでは“ゆめ肉豚60”について説明いたします。DE3,418kcalの飼料のSIDリジンは、同じようにケンボローのマニュアルでは0.74％となります。やはり0.13％少ないこととなりますが、日本の枝肉事情を考慮すると丁度よいのではないでしょうか。子豚と同じように、“ゆめ肉豚60”の給与体重で、飼料に0.71％含まれているリジンを十分利用して増体につなげるには、メチオニン＋シスチン＝0.35％、トレオニン（スレオニン）＝0.40％、トリプトファン＝0.11％、バリン＝0.41％が必要であると計算されます。

“ゆめ肉豚60”のその他のアミノ酸のトレオニンを除き満たしています。ゆめシリーズはアミノ酸バランスの面でもFCと増体に優れた飼料であることが分かっていただけたでしょうか。やはり、子豚用と同様アミノ酸の有効率が低い原料（キャッサバやそうこう類）が多く使われているので、有効アミノ酸の量はかなり低くなります。おそらく養豚用ではアミノ酸バランスも、有効アミノ酸も計算していないと思います。

表１　ゆめ肉豚40の原料表示

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	73％	とうもろこし
植物性油かす類	24％	大豆油かす
その他	３％	動物性油脂、炭酸カルシウム、食塩、りん酸カルシウム
※注１．原材料名は、原則として配合割合の大きい順である ２．（　）内の原材料は原料事情等により使用しないことがある		
CP15.5％、TDN78％（DE：3,440kcal）SIDリジン0.79		

表２　他社子豚用の原料表示

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	69％	とうもろこし、（小麦）、（マイロ）
植物性油かす類	15％	なたね油かす、大豆油かす
そうこう類	９％	とうもろこしジスチラーゼグレインソリュブル、コーングルテンフィード、ふすま、（米ぬか）
その他	７％	菓子くず、炭酸カルシウム、りん酸カルシウム、食塩
※注１．原材料名は、原則として配合割合の大きい順である ２．（　）内の原材料は原料事情等により使用しないことがある		
CP14％、TDN77％（DE：3,396kcal）		

表３　ゆめ肉豚60の原料表示

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	83％	とうもろこし、玄米
植物性油かす類	15％	大豆油かす
その他	２％	炭酸カルシウム、食塩、りん酸カルシウム
※注１．原材料名は、原則として配合割合の大きい順である ２．（　）内の原材料は原料事情等により使用しないことがある		
CP12％、TDN77.5％（DE：3,418kcal）SIDリジン0.61		

表４　他社肉豚用飼料の表示

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	77％	とうもろこし、（マイロ）、（小麦）、（キャッサバ）
植物性油かす類	15％	なたね油かす、大豆油かす、（コーンジャームミール）
そうこう類	９％	ふすま、（米ぬか）
その他	７％	炭酸カルシウム、菓子くず、食塩、りん酸カルシウム、パン酵母、植物性油脂、無水ケイ酸
※注１．原材料名は、原則として配合割合の大きい順である ２．（　）内の原材料は原料事情等により使用しないことがある		
CP12％、TDN76％（DE：3,350kcal）		

全国優良畜産経営管理技術発表会
組合員が最優秀賞および優秀賞受賞

11月30日（公社）中央畜産会主催の『平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会』が開催されました。これは農林水産祭参加行事の一環として毎年開催されるもので、最優秀賞・農林水産大臣賞に選ばれた事例が農林水産祭での選賞の候補事例となります。今回は最優秀賞・農林水産大臣賞に養豚経営２戸、肉用牛経営２戸が、優秀賞・生産局長賞に養豚経営１戸、酪農経営１戸、肉用牛経営２戸が選定され、組合員である㈱五十嵐ファームが最優秀賞を、㈲横山養豚が優秀賞を受賞されました。

おめでとうございます！　（東野）

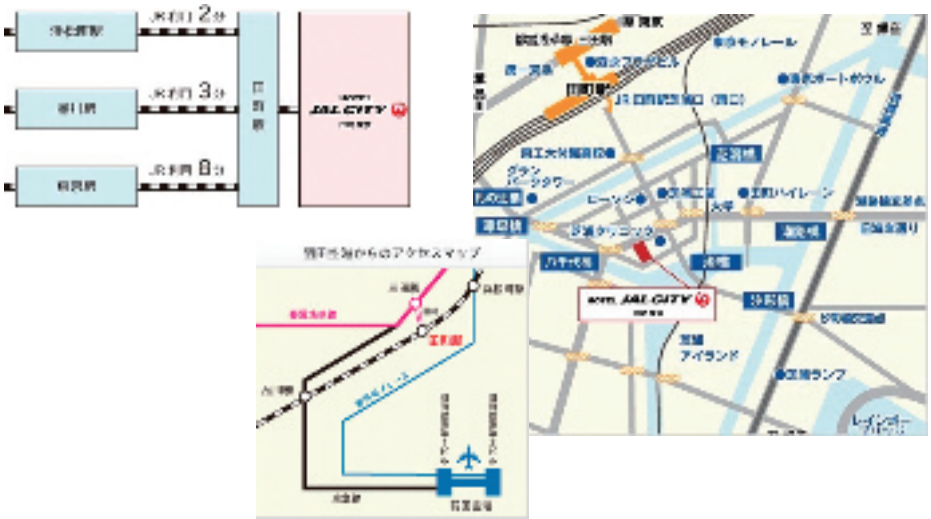
右から３番目が最優秀賞を受賞した五十嵐一春氏

第17回通常総会開催のお知らせ

第17回通常総会を下記の要領にて開催致します。詳細は別途ご案内申し上げますが、多くの組合員の方々にご参加いただきたくお願い申し上げます。

開催日時　平成30年２月16日（金）　午後１時30分～
開催場所　ホテルJALシティ田町
　　住所：東京都港区芝浦３-16-18　TEL03-5444-0202
　　交通：JR田町駅芝浦口（東口）より　徒歩５分
議　　案：◆第17期事業報告、決算（案）の承認
　　◆理事・監事任期満了に伴う改選
　　◆第18期事業計画案の承認
　　◆経費の賦課徴収方法の決定
なお、総会終了後基調講演（予定）、懇親会を行います。

アクセス：



編集後記

＊＊＊

新年明けましておめでとうございます。今年は戌年。「戌」という漢字には元々“滅ぶ”という意味があり、草木が枯れる状態を表しているそうです。その前の酉年は、果実が成熟の極限に達した状態を表し、後の亥年は草木の新たな生命力が種の中に宿り閉じ込められた状態を表しているそうです。つまり、戌年は成熟した果実がいったん枯れた後、新しい生命力の芽生えへと繋がる年のようです。

ここ何年か続いた高豚価で得られた蓄積を今後の経営に生かすべく、明確な目標・目的をもって地道な努力を重ねていくことで、今後の経営が左右される分かれ道の年になりそうです。小さいことからコツコツと頑張って行きましょう！

先日初めて寄席に行きました。一度は観てみたいと思いつつも何となく敷居が高い感じがしていましたが、いざ行ってみると観客は子供からお年寄りまで老若男女さまざまで、立ち見客まで大勢いて驚きました。内容も落語、漫才、マジック、講談などバラエティ豊富で観ている人を飽きさせません。

中でも語りかけるように観客の目を見ながら話したり、身振り手振りを使って楽しませたり、間の取り方も絶妙な落語家の話術には感心させられることしきり。いろいろと勉強になった１日でした。（東）